

1. ビジョンの基本的事項

（1）策定趣旨

2017年3月に「あいち公共交通ビジョン」を策定し、「世界との交流を促進し、安心・快適な暮らしを支えるあいちの公共交通」を基本理念に、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの構築を目指し取組を推進してきた。今後、ジブリパークの開業やリニア中央新幹線の東京・名古屋間開業といった愛知のさらなる飛躍につながるプロジェクトが進展する一方、人口減少や新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域公共交通は非常に厳しい状況となっている。こうした中、現行ビジョンの取組期間が2021年度で満了することから、新たな課題に対応しつつ、切れ目なく取組を推進していくため、次期あいち公共交通ビジョン（仮称）を策定する。

（2）ビジョンの位置づけ

「あいちビジョン2030」が掲げるめざすべき愛知の姿「危機に強いあいち」「すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知」「イノベーションを創出する愛知」「世界から選ばれる魅力的な愛知」の実現に向け、輝くあいちを支える交通ネットワークの構築に向けた方向性を示し、国、県、市町村、交通事業者、県民等の連携した取組を促進する。なお、市町村等が策定する地域公共交通計画を始め、本県における地域公共交通の基本的な方向性を示す指針となるものとする。

（3）取組期間

2022～2026年度の5年間

2. 検討の視点

<社会経済の展望>

- 感染症、災害リスクの増大
- 人口減少の進行・人生100年時代の到来
- 共助社会の必要性の増大
- 第4次産業革命の進展
- スーパー・メガリージョンの形成
- 都市のスポンジ化、高齢インフラの増加
- 脱炭素化の進展、循環型社会への移行

<公共交通を取り巻く状況の変化>

- 新型コロナウイルス感染症拡大による影響
 - ・急激な利用者減による経営悪化
 - ・人々の行動、意識の変化
 - ・安心・安全対策の実施
- 高齢者の移動手段の確保
 - ・自動車運転免許自主返納の増加
- MaaS等新たなモビリティサービスの推進
 - ・MaaSの普及促進
 - ・運賃・料金の柔軟化、キャッシュレス化
 - ・新型輸送サービス（オンデマンド交通、グリーンスローモビリティ、超小型モビリティ、自動運転による交通サービス等）の推進
- バリアフリー化の一層の推進

<本県における人を呼び込むプロジェクトの進展>

- 2022年 ジブリパーク開業
- 2026年 第20回アジア競技大会開催
- 2027年度 リニア中央新幹線（品川-名古屋間）の開業

<国の動向>

- 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の一部改正（2020年11月27日施行）
 - ・地域が自らデザインする地域の交通、地域の輸送資源の総動員などによる持続可能な地域公共交通の実現
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」及び「移動等円滑化の促進に関する基本方針」の一部改正（2021年4月1日施行）
 - ・ハード・ソフト両面でのバリアフリー化をより一層推進
- 「第2次交通政策基本計画」の策定（2021年5月28日閣議決定）
 - ・誰もがより快適で容易に移動できる、生活に不可欠な交通の維持・確保
 - ・我が国の経済成長を支える、高機能で生産性の高い交通ネットワーク・システムへの強化
 - ・災害や疫病、事故など異常時にこそ、安全・安心が徹底的に確保された、持続可能でグリーンな交通の実現

<あいち公共交通ビジョン（2017-2021）>

- 5つの基本方針に基づき、広域連携における公共交通の活性化、公共交通の利便性の向上、地域特性に応じた生活交通の確保・維持、安心して公共交通を利用できる環境の創出などが着実に進められてきた。
- こうした中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、公共交通は厳しい状況に置かれており、今後も中長期にわたり地域公共交通を維持・確保していくためには、危機に強く、誰もが安心して快適に移動できる公共交通の実現に取り組んでいく必要がある。
- 合わせて、ジブリパークの開業や、リニア中央新幹線の開業といったプロジェクトの効果を圏域全体に波及させ、愛知のさらなる発展につなげていくために、引き続き、総合的な交通ネットワークの充実に一層取り組んでいく必要がある。

3. 目指すべき姿

（仮）危機を乗り越え、輝く未来へつなぐ あいちの公共交通

～誰もが安心して快適に利用できる公共交通を目指して～

4. 施策の方向性

まもる

公共交通は、県民生活や経済活動を支える移動手段として重要な役割を果たしているが、人口減少の進行に加え、新型コロナウイルス感染症拡大により、厳しい状況に置かれている。加えて、新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の行動・意識・価値観にも大きな影響を及ぼし、新しい生活様式の中での公共交通のあり方も問われている。危機に強く、誰もが安心して快適に移動できる公共交通ネットワークの確保・充実を実現していく。

【持続可能な移動手段の確保・充実】

○地域公共交通の確保・維持

- ・地域公共交通計画の策定 ・広域連携の促進
- ・公共交通の利用促進

○輸送手段の総動員による移動手段の確保・充実

- ・地域の実情に合わせたダウンサイジング等による最適化
- ・地域の輸送手段の総動員及び既存公共交通との連携
- ・貨客混載の活用

○新型輸送サービス（AI オンデマンド交通、グリーンスローモビリティなど）の活用促進

○ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた快適で質の高いモビリティサービスの提供

- ・MaaS の普及促進 ・キャッシュレス決済の普及
- ・交通関連情報のデータ化、GTFS 化 ・柔軟な運賃制度の活用

【交通分野における担い手の確保】

- ・バス、タクシー事業における人材確保の取組の推進

【安全・安心な公共交通サービスの提供】

○災害に強い公共交通ネットワークの形成

- ・鉄道施設の耐震・老朽化 ・長寿命化対策
- ・災害時の帰宅困難者対策

○感染症対策の推進

- ・ピークシフトに向けた取組の実施 ・MaaS の普及促進
- ・利用者への呼びかけ

○公共交通輸送における交通安全の確保

- ・自動車安全技術や ITS 技術の活用、普及啓発

【誰もが安心して移動できる環境の創出】

○バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進

- ・鉄道駅におけるバリアフリー化、ホームドア設置の促進
- ・ノンステップバスや UD タクシーの導入促進
- ・心のバリアフリーの推進

○高齢者等の移動手段確保に向けた取組の推進

- ・自動車運転免許返納支援事業の実施 ・福祉部門との連携促進

やわらげる

SDGs の達成に大きく貢献する「環境首都あいち」を実現し、持続可能な地域づくりをめざし、交通部門における脱炭素化に取り組む。

【脱炭素社会に向けた環境負荷の低減】

○公共交通分野における次世代自動車の導入推進

- ・バス、タクシー等における先進環境対応自動車の導入促進
- ・次世代自動車のエネルギー供給設備の整備

○公共交通の利用促進

- ・MaaS の普及促進 ・乗継利便性の向上
- ・エコ モビリティ ライフの推進 ・モビリティマネジメントの推進

○グリーンスローモビリティ等の活用促進

○航空分野におけるカーボンニュートラルの促進

○カーボンニュートラルポートの形成

つなぐ

地域活力や生活機能の維持、まちのにぎわいの創出など地域特性に応じたまちづくりと一体となった交通ネットワークの構築を進める。

【まちづくりと連携したコンパクト・プラス・ネットワークの推進】

○まちづくりと連携した計画的な公共交通ネットワークの構築

- ・地域公共交通計画と立地適正化計画の策定
- ・公共車両優先システムやバス優先レーン等の導入検討

○交通結節点の機能強化

- ・駅前広場の整備、集約型バスターミナルの整備
- ・鉄道駅におけるパーク&ライド、サイクル&ライドの推進

○公共交通と連携した自転車活用の推進

- ・自転車活用推進計画の策定 ・シェアサイクルの普及促進

【都市基盤の整備推進】

○交通基盤の整備推進

- ・鉄道の連続立体交差事業の推進 ・駅改良事業の推進

【持続可能でスマートな地域づくり】

○モビリティ先進県の実現（自動運転技術や新たなモビリティサービスの社会実装）

- ・MaaS の普及促進 ・自動運転の社会実装の推進

たかめる

リニア中央新幹線の全線開業に伴い、スーパー・メガリージョンの形成が期待されている。そのセンターとして、首都圏の持つ社会経済的な機能を代替しうる中京大都市圏の形成を目指していく。

【スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり】

○リニア中央新幹線の整備促進と開業効果の広域的な波及

- ・リニア中央新幹線の整備促進 ・名古屋駅のスーパーターミナル化
- ・名古屋駅からの 40 分交通圏の拡大 ・東海道新幹線駅の利活用
- ・総合的な交通ネットワークの充実 ・リニア中央新幹線中間駅の活用

○空港の機能強化

- ・中部国際空港の機能強化 ・中部国際空港へのアクセス強化
- ・県営名古屋空港の機能強化 ・県営名古屋空港へのアクセス強化

○港湾の機能強化

- ・港湾の機能強化
- ・クルーズ船誘致に向けた取組推進、地域の観光資源との連携

○高次都市機能等の集積の促進

かがやく

今後、国内外から人を呼び込むビッグプロジェクトが控えており、この好機に、観光やビジネスの交流促進に資する公共交通ネットワークの充実に取り組み、地域の活性化に結び付けていく。

【観光交流を促進する公共交通ネットワークの充実】

○交通拠点と観光地を結ぶ公共交通アクセスの充実

- ・中部国際空港、県営名古屋空港へのアクセス利便性向上
- ・主要駅と観光地を結ぶ二次交通の充実

○観光客等の利便性向上

- ・MaaS の普及促進 ・交通関連情報のデータ化、GTFS 化 ・多言語化
- ・キャッシュレス決済の普及 ・サブスクリプションの導入

○周遊を促す仕組みの構築

【ジブリパーク開業のインパクトを活用したリニモ沿線地域づくり】

○リニモ沿線地域づくり重点プラン 2021-2025 の推進

【交流圏拡大に向けた広域交通ネットワークの形成】

○東海道新幹線を生かした東西連携の拡大

5. その他

○施策ごとに数値目標（KPI）を設定。（地域公共交通計画の策定市町村数、旅客施設のバリアフリー化など）

○本ビジョンにおける取組を推進し、SDGs に貢献する。

